

## 山地酪農による八王子中山間地域の活性化 ～人と牛で明日を創る～

Revitalization of the Hachioji area through mountain dairy farming  
～Creating the Tomorrow's Future with People and Cows～

藤巻諒, 野澤優大, 高橋健, 椎葉えな, 久嶋陽  
指導教員 寺川隆一郎

帝京大学 経済学部 寺川ゼミ

キーワード：八王子, 中山間地域, 山地酪農, 農林業, 高付加価値

### 1. 緒言

八王子市は中山間地域が多く、森林面積は市内面積のおよそ42%を占めている。しかし、これら地域を、経済資源として活用しきれていない。東京都の林産物生産額の推移を見ると、素材（丸太原木）生産額は2007年の1.7億円から2020年の2.5億円と近年の国産材志向の高まりで増加するも、八王子市を中心に生産されるきのこ類は同期間に4.1億円から2.6億円に低下し、林産物生産額全体では6～7億円と低位で推移している。中山間地域での付加価値生産の低迷が続いているのである。

林業所得の低迷から林業従事者数も減少している。それに伴い山林の管理が滞ると、土砂崩れや河川の氾濫リスクが高まり、また、里山が荒廃すると、都市生活に潤いを与える自然体験の機会が失われてしまう。

こうした背景から八王子市は、山の手入れを行った場合の経費を一部援助するなど、農林業を促進する活動に取り組んでいる。しかし、これらの政策だけでは農林業の長期低迷を打開するには至っていない。そこで本報告では、八王子の中山間地域に、傾斜地での循環型酪農により山地保全と付加価値生産を両立する、「山地酪農」という近年再評価が進む小規模酪農法を導入することを提案する。

### 2. 目的

八王子の中山間地域（恩方地区など）に山地酪農を導入することで自然酪農による乳製品という高付加価値生産を実現し、衰退している中山間地域の生産性を高めるのと同時に、山地酪農を斜面地で営むことで山肌を強化し、土砂崩れや川の氾濫を防ぐことを試みる。

また乳製品の生産に留まらず、牛と人の信頼関係を築きやすい山地酪農の特性と、都市近郊という八王子の立地を活かした観光サービスの提供により、中山間地域の活性化も目指したい。

### 3. 方法

山地酪農についての文献調査だけでなく、実践している牧場に足を運び、現地調査により理解を深め、八王子市に導入する場合どのようなことが課題になるかを探る。

次に、八王子市の酪農の現状を確かめる。中でも人気の高い磯沼ミルクファームでフィールドワークを行い観光地としても山地酪農を事業化できるか探る。

また、八王子市の過去の土砂崩れ、川の氾濫のデータを調べ中山間地域での農林業の衰退との関連性を探る。

以上を踏まえ、八王子市の中でも中山間地域の多い恩方地区で、耕作放棄地や牧場跡地など、斜面地で山地酪農を導入できそうな候補地を探し、現

地調査で確認する。



図：なかほら牧場の牛たち（令和5年8月撮影）

#### 4. 結果

八王子市の磯沼ミルクファームでは山地酪農のように完全な放牧とまではいかないが牛たちが自由度の高い飼育環境にあった。動物福祉への配慮が都市型農業で成功していた。また、その牛たちと触れ合えることで子供のいる家族の来訪が多く見られ、観光地としても一定の成功を確認できた。

また、過去の新聞記事から、2019年に大雨により恩方地区で浸水や土砂災害があったことを確認できた。この台風で、恩方地区では土砂災害や、道路崩落が複数個所で発生し、下水道被害も発生した。山地の保水力を高める山地酪農は、こういった災害防止に寄与できる。

山地酪農を実践している牧場（神奈川県薫る野牧場）での実地調査と、恩方地区での候補地探しについては今後実施する予定である。

#### 5. 考察

山地酪農とは、1960年代に、中山間地域を有効活用するために植物学者の猶原恭爾が考案した酪農法である。傾斜地の森林に牛を放ち下草や低木の葉を食べさせ、作業空間を確保した後に、間伐を行い、在来種の野芝を植える。その後は適正規模で自然放牧をするだけで、牛の蹄がほどよく斜面を耕し、糞尿が堆肥となり、斜面が草地として維持される。牛を舎飼いせず牧草地の施肥も不要で自生する草以外に飼料を調達する必要もないため、一人から小規模に実施できるのが特徴である。

牛に多くを委ねる生産方式ゆえに、大量生産や

安定供給には向かない。しかし、近年、工業型製品とは違った自然な風味や、動物福祉や環境負荷への配慮といったSDGsへの支持が高まる中、自然放牧で循環型の山地酪農の製品は一部で注目を集めつつある。中でも、早くから自主流通ルートを開拓し、六次産業化を進めた岩手県のなかほら牧場はブランドを確立し、現在では、大手メーカーの5倍の値段での牛乳の販売を実現している。

持続可能性や倫理性への関心は、都市部では広い層に認められる。動物福祉を配慮する磯沼ミルクファームが一定の成功を収めていることはその証左であろう。よって、都市型農業の好適地である八王子に、山地酪農を導入することは成功の可能性が高いと言える。

#### 6. 提案

中山間地域の多い恩方地区で耕作放棄地や牧場跡地を山地酪農での入植希望者に斡旋する仕組みを確立する。上記のなかほら牧場は後進育成に力を入れており、同牧場で修行をした第2世代が各地で小規模に新たな牧場を開設している。また、山地酪農での生乳は、工業型製品との殺菌法の違いのため、法令により消費期限が短く設定される。そのため、大消費地を地元擁する、都市型農業の好適地である八王子は、山地酪農と親和性が高い。農地バンクのようなかたちで斡旋する仕組みさえ用意すれば、入植希望者は十分に見込めるだろう。

#### 7. 結論

林産物生産額が長期低迷する中、中山間地域の活性化には新たな角度からの接近が必要だろう。そこで山地保全と高付加価値生産を両立する山地酪農を導入する。山地保全という既存の課題を解決しつつ、SDGsへの対応も実現するという本提案は、八王子市に酪農を中心とした、新たな価値創造の契機を生むに違いない。